



諏訪森だより



駅舎・まち・ひとびと



諏訪森 2115 を考える

お正月のお祝いが過ぎて、お花見を楽しんで、七夕様も曇り空でしたが、あつというまに、今年も半年が過ぎました。光陰矢の如しですが、百年先のことを考えると、それは一寸遠すぎるということかも知れません。

諏訪森のまちは、一昔前とは随分変わっています。まちの姿は、時代と共に変化します。これからは、良い街に発展して欲しいのですが、時には、これはまずいということも起こります。

今から百年前というと大正4年ですが、その当時の濱寺町の全人口は5千人ほどで、下石津村、船尾村、下村の三村に分かれて住んでいました。明治40年に諏訪ノ森駅が開設されましたが、当時は、駅周辺に住む人は僅かでした。最初の駅は大正8年に現在の場所に移設され、新しい駅舎がつけられました。駅前には商店街が出来て、駅周辺に住む人が増えはじめました。その後、大阪に近くて環境の良い住宅地ということで、住宅地域の人口が一層増加しました。

戦後、昭和三十年代の後半に、海岸が埋め立てられて沖合に工業地が広がりました。当時は公害対策が不完全でしたので、海岸に近い三光松地区の高級住宅地の人たちの多くが、高野線沿線などに移住して行きました。その一方で、農村が変化して周辺の田畑が無くなり、そこに住宅が増えて、人口が多くなりました。

浜寺小学校はマンモス校となり、昭和五七年には浜寺東小学校が分離・開校されました。人口の増加で諏訪ノ森駅も乗降客が増えて、上り駅は拡張され、拡張の余地が無かった下り駅は移設されました。人口5千人だった旧濱寺町区域の人口は

平成二二年には4万人を越えています。

数年前から、南海本線の連立工事が具体化してきましたので、駅前付近が少しずつ変わっています。今後、10年ほど先には高架工事が完成して駅前の様子が一变します。その時、私たちの生活はどのようになれば良いのでしょうか。会員の皆さんのご意見を伺おうと、電子メールによるアンケートを実施しました。

駅前商店街が寂しくなっているから、国道から阪堺線まで、二階造りのショッピングモールを建てて、お天気や車に邪魔されない空間を作る。一階には、お店、銀行、郵便局が並び、二階は多目的ホールや教室などのスペースにする。おしゃれなカフェや美味しいレストランがあれば素晴らしい。

諏訪森だけではなく、浜寺地域の良いところは「こころの文化」の豊かさだろう。このまちは、昔から、生活の中に「自分のことだけじゃなく、他人を気遣う」マナーがあり、それを子ども達にも教えて伝えてきました。このような良風は何時までも、堅持していきたい。

高齢者が増えて、百年先のことなど考えようもない、ということでは無くて、若い人たちの考えや行動力に期待して、百年先のまちづくりを進めては？

今日はどうしよう、明日は何をしよう、毎日の積み重ねが百年先をつくり出します。道路や家並みも百年先には随分変わっていることでしょう。このようなまちのかたちには、きちんとした将来計画が必要です。計画性と日常性の両面からまちの将来を考えましょう。今日のこと、明日のこと、百年先のこと、整理をして提案しましょう。

NPO法人浜寺諏訪森を考える会の日誌

1. 4/26 はまでらっこまつり 協力参加
2. 4/28 第15回理事会
3. 5/17 浜寺公園 ローズカーニバル 出店
4. 5/24 総会、臨時理事会開催
5. 5/26 第2回 理事会開催
6. 6/23 第3回 理事会開催

第34回 フェスタ諏訪森 2015

日時 7月26日 (日) 午後5時から9時まで

場所 諏訪ノ森駅踏切から船尾駅まで

主催 諏訪森商店会、諏訪森本通り商店街振興会

南海本線(堺市)連続立体交差事業

仮駅舎の建設と現駅舎の移転について

5月24日の総会後の全体会議で、堺市から工事スケジュールと、その後の駅舎保存活用についての説明がありました。

現在の工程表では、仮駅舎の建設工事が平成28年度末まで行われて、その後二年間かけて現駅舎の曳家移設工事が行われます。従って、駅舎の保存活用事業は平成30年12月に開始できる見込みになっています。

駅舎の活用については、今後、堺市を交えていろいろと打ち合わせをした上で、具体的な実施段階に入ることになります。工程表では平成29年に移転に関する設計が始まりますので、それまでに移転後の実施事業の具体的な姿を描いておく必要があります。まだ時間はたっぷりありますが、今から一年ぐらいかけて議論を固めることとなります。

現駅舎の活用計画について

この駅舎は、まちのイメージを象徴する文化財であり、その活用を通じて様々な情報を発信する場所になります。

保存駅舎はまちの玄関口におかれますので、誰でも

自由に気兼ねなく出入りできる施設であり、まちの人々が共有する憩いの場にしなければなりません。

また、公共の施設ですから、できる限り、毎日開いていて、日中は利用できるようにすることが望ましいし、必要に応じて、夜間の利用も出来るように出来ることが望ましいでしょう。

一寸した飲食が出来れば、人が集まりやすいというメリットも出て来ます。まちの歴史を展示するとか、観光案内をするといった機能も持たすことが出来ます。いろいろと考えてみましょう。

諏訪ノ森駅部の工事スケジュール（予定）

項目	期間(目安)等	平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度						
		4	5	6	10	12	2	4	5	6	10	12	2	4	5	6	10	12	2	
仮駅舎建設工事	～平成29年3月下旬まで	→																		
現駅舎の調査	約6か月																			
現駅舎の設計 (曳家・耐震・耐火・改築等)	約6か月																			
曳家工事 耐震・耐火・改築等 工事	約10か月																			
現駅舎試験活用について	平成30年12月開始予定																			○

※ 現駅舎の状態によっては、調査及び曳家工事等に必要期間が変更になる可能性があります。

連続立体交差事業の現場から

諏訪ノ森駅の上り線プラットフォームの改造工事が第4ステージに入りました。

新しいプラットフォームの屋根の工事ができあがって、7月早々に、古い屋根が撤去されました。トイレから先のプラットフォームは全部狭くなり、仮設の壁が張り出しています。予定では9月末までに仮設壁の裏の床を整備し、新しい壁を新設の白い柱のところに造ります。壁の位置は柱の西側だそうです。この工事が終わると、仮設の壁面が取り払われて、プラットフォームの中は仮壁の2.0メートルから2.8メートルに広がります。

壁の向こう側が気になりますが、そこには仮線が通りますので、その準備が出来ています。何メートルか置きにコンクリートの台が並んでいます。多分この上に仮設の桁を置いて、そのうえでレールを敷設するのだと思います。右の写真は旧屋根の撤去前です。現在は、旧屋根とその支柱はなくなり、土台のコンクリートをショベルで撤去中です。右側の空間には仮線用のプラットフォームが建設されます。

駅の南側にある踏切のところから、西松医院の横をすり抜けて線路がここにやってきます。三光川のところには仮設の鉄橋が必要です。踏切の南側のマンションのところは、線路脇の敷地を少し削れるように整備されています。マンションの建物は避けて通れるようです。



アンケートに答えて

100年後の諏訪ノ森の夢

古田 一

今から100年後、2115年ごろには諏訪ノ森がどうなっているんだろう。どうなっていればいいんだろう。私は当然この世にはいません。多分孫の孫（玄孫一やしゃご）の時代になっているだろう。多少無責任に夢を描いてみたいと思います。諏訪ノ森は

この地で生まれ育った人々にとって、誇りに思える故郷になっていて欲しい。

他の地で生まれ育った人々にとって、住んでみたい土地になっていて欲しい。

そんな気持ちでアンケートのいくつかの切り口から入場して道に迷い込んでみたいと思います。

今は2115年。今年は南海本線が高架になり諏訪ノ森駅が現在の駅になって90周年になる。国道側から見ると樹齢100年のジャカラントの並木に隠れてどこに駅があるのかわからない。このジャカラントの並木道は日本で例を見ない並木道である。

駅に通じる両脇にマンションがあり、それぞれ入居できる年代が決まっている。駅に向かって右は子育て世代、左は子育てを終わった世代が入居している。左のマンションの隣に幼稚園、保育園があり年寄りのボランティアの人々が活動している。世代間の溝を埋めるために堺市が考案したらしい。幼稚園、保育所区画のとなり、市の運営する農園が石津川まで続いている。ここでは省エネを目的に、風車を復活させて水を汲み上げている。石津川の水もきれいになり今は農業用として使用できるようになった。

年寄りが次の世代を育てることに、子どもたちは野菜を育てる喜びを感じながら、全世代が命の大切さを生涯通じて体感できるようにと作り上げられた一画である。今や全国のモデル地区となって勉強に訪れる研究者、学生が多い。そのために右側の子育てマンションのワンフロアに市と大学が共同で「まちづくり、ひとづくりの研究所」を開設して活動している。

そのマンションの谷間に芥子粒ほどに小さいが、キラリと光って見える今の駅舎の前の駅舎がきれいに保存されている。そこではコーヒーはもちろん抹茶も味わえる。そこで働いている粋なおじいさん、おばあさんは地元の人で当地の昔話をしてくれる。もちろんこの新旧駅舎が交代した100年前の話もしてくれる。この場所は自転車のロードバイクステーションでもあり、若者たちに人気のスポットと

なっている。

ジャカラントの大木の木陰で汗を拭いている若者たち、その背景に旧駅舎、いつものことながら絵になる風景である。その奥に諏訪ノ森駅舎がある。オープン当時は街の雰囲気からは浮いた存在だったようだが、今や周辺も変わって目立たなくなったが依然として街の中心として威厳を保っている。高架をくぐって浜寺小学校までの商店街は歩行者天国となり道は大昔の別荘が建て替えられたときなどにでてきた切り石が敷き詰められ、その石の中に出所が刻まれたものもある。両脇の商店はそれぞれ個性豊で昔ながらの店もあり、当世流の店もある。仕入れは日本全国産地から直接仕入れで多少割高かもしれないが新鮮さが街中に漂っている。いつごろからか6月に商店街ではジャカラント祭りが一週間実施され遠くからの見物客でにぎわっている。

最近、ジャカラントに加えてカエンボク、ホウオウボクを植えて世界三大花木を一箇所で観られるようにすれば世界的な名所になると、計画されているらしい。そうすればジャカラント祭り、カエンボク祭り、ホウオウボク祭りとそれぞれ花のきれいな時期に祭りを企画すれば諏訪ノ森三大花祭りが完成する。楽しみである。今年2115年だから2200年頃には大変な名所になるだろう。

南海本線の高架下では無農薬で野菜の水耕栽培がおこなわれていて、品種改良の実験も市と大学で行っていて「諏訪ノ森大根」「諏訪ノ森ナス」も商品化されてきている。そこで採れた新鮮野菜を食材にして専門レストランが出来て、料理研究家の研修も行われ一般の人々にも好評である。

このような街が出来上がった土壌には、2015年頃から始まった地元の保育園、幼稚園、小学校、中学校、地域一体となって展開してきた「笑顔とあいさつの人づくり」の根気強い運動がある。幼児のころから家庭でも学校でも地域でも笑顔とあいさつを教えられ、親となって、じいさんばあさんになって子や孫にそれを体得させていく。笑顔とあいさつがコミュニティを創っていく。地道な運動であったがそれを継続することでいつの間にか郷土意識も芽生え、他地域からも模範にされる諏訪ノ森の伝統ができあがった。簡単なソフトウェアを世代を超えて築き上げ、地域の文化を創っていく。人間を創っていく。これが基礎になって2115年今の諏訪ノ森がある。そして2200年にはさらに磨きがかかっていることだろう。

アンケートのどの入口から入ったか、どの項目を通過したかわかりません。気持ちよく道に迷いすぎて気が付けば、いつの間にか2015年に戻ってきていました。

面白いお話ですね。皆さん長生きをして、行く末を確かめましょう。

事業案内

浜寺諏訪森を考える会の文化活動

文化活動について、現状をお知らせいたします。

1. 英語を楽しむ会

中本先生の高齢者のための英語教室は、先生の御都合でしばらくお休みになっていました。せっかく続いていた教室が一時的でも中断することはもったいないので、趣向を変えて再開することにしました。

この試みでは、映画のビデオを見ながらセリフを聞いて、シナリオでしゃべっている英語を確かめ、またビデオを見るということを何度か繰り返すことにしました。

参加の皆さんの若き日の思い出に、一昔前の映画を取り上げています。最初の映画は名画「カサブランカ」です。ハンフリー・ボガードとイングリッド・バーグマンの顔合わせのアカデミー賞受賞作品ですが、テーマ音楽「時の過ぎ行くままに」も有名です。

この映画のシナリオを英語の教科書として見ると、非常に易しい英語で会話が交わされています。でも、よく読むと、なかなかおしゃれで、一人一人が深刻な状況の中で会話を楽しんでいるように思えます。

「君の瞳に乾杯」というセリフが有名ですが、「Here's looking at you, kid.」というのがその原語で、瞳も乾杯も出て来ません。どの単語も中学1年生で習うものです。英語は簡単なのです。

「Where were you last night?」

昨夜はどこに居たの

「That's too long ago, I don't remember.」

そんな昔のことは憶えていないよ

「Will I see you tonight?」

今晚逢えるかしら

「I never make plans that far ahead.」

そんな先のことは約束できないよ

これも有名な名セリフです。ご一緒に、英語を楽しんでみませんか。

三年間幼稚園に通っていた孫が、四月から小学校に上がりました。今までは、朝夕に送り迎えをしていましたが、今度は家の前を通る集団登校の列に入れて貰いましたので、のびのび教室からの帰校だけのお迎えになりました。

幼稚園までの道では、行き交う皆さんにおはようございますとご挨拶をしていましたので、随分沢山の方々と顔見知りになりました。子ども達も、おはようございます、さようならのご挨拶がキチンと出来ました。

小学校もご挨拶が大事だと教えているはずですが、登校する子ども達は、いくらおはようございますと声をかけても知らん顔で行き過ぎます。知らない人に声

2. 写真クラブ

写真クラブは5月31日に中之島のローズガーデンで撮影会を開催しました。また6月21日には浜寺公園の花火を撮影しました。7月5日には舞洲のゆり園で撮影会を開催しました。

写真クラブの例会では、撮影した写真を見ながら、カメラの使い方や撮影の手法について話し合いをしています。野々村プロの薔薇の写真がお手本になります。真っ黒な背景の中に綺麗な花が一輪浮かび上がっています。夜の写真ではありません。太陽が燦々と照り輝く中で、背景が黒く、花は明るく写すには???

綺麗な花を選び、光線の向きを考えてカメラを構えます。背景が黒くなるような花と背景の位置を探します。

花の中央にピントを合わせます。その時、ピントの位置を少し動かして、その付近の一番明るい場所を選びます。

そうすると、画面全体が黒く沈んで花が明るく浮かび上がってきます。これが先生の教えですが、実際にやって見ると、そうは簡単には行かないのです。

簡単にできるなら、写真クラブなんて面白くありません。ああだ、こうだと、みんなで考えて語り合う、他愛もないクラブです。飛び入り歓迎!!!



をかけられたら、気をつけなさいと教えられているのかなと思います。

小学校の通学路には、辻つじで交通指導員の方が子ども達に声をかけてくださいます。雨が降っても風が吹いても、休みなく指導されています。有難うございます

小学校から南に延びる通学路は、平安時代に、安部の保名が、幼児清明をだいて、葛の葉にいる母狐のところを通った路だというので、保名路と呼ばれていたそうです。狭い路で曲がり曲がって三光川を渡ると二つに分かれます。左手の路は、明治の頃は、大鳥神社まで延びていました。これは、歌舞伎・人形浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑(葛の葉)」に出てくるお話です。